

高等学校 国語科 シラバス

3年間のねらい、学習目標

人間が人間たるゆえんはどこにあるのか。それは、我々が「考える」存在である、というところにある。我々は、一人一人が違った考えを持つ存在である。自らの考えを他者に伝える手段として、また他者の考えを理解する手段として「言葉」が必要になる。我々は、「言葉」を通して他者と自己の違いを知り、精神的に成長していく。

考えもしなかった新しい視点で物事を切り取った文章に触れたとき、我々の世界は広がる。想像もつかない遠い時代の詩に出会ったとき、我々の人生は深みを増す。

「言葉」は、人生を豊かな、立体的なものにしてくれる、かけがえのない「出会い」でもある。

このようなことに思いを巡らせるとき、自ずと「国語」を学ぶ目的が見えてくる。すなわち、説明的文章を学ぶ目的は、新しい視野や考える道筋を獲得し、思考力と判断力を高めることにある。文学的文章を学ぶ目的は、人間存在に対する理解を深め、自らの生き方を見つめ直す糧とすることである。古典を学ぶ目的は、古人の生き方や価値観に触れることで、人間存在にとって不変のものを確認する、または変化するものに気づき、そこから現代という時代について考えを深めることにある。そうして生み出される自らの思索の結果を、ただ内面に沈殿させるのではなく、他者に伝えて活きたものとするために、表現力を鍛える。

優れた詩や文章に多く出会うことで、自らの内面と言葉を磨き、確固たる自己と豊かな感受性を備えた人間となって、この同志社香里高校を巣立って行ってほしい。そして、広い世界で自らを発信し、他者とつながることで、豊かな人生を送ってほしいと願っている。

第1学年	教科書	大修館書店「言語文化」(言文 705)
言語文化 (3単位)	副教材	国語便覧、古典文法テキスト、古文単語集

学習到達目標

1. 文学的文章 文学的表現を味わい、人間についての理解を深める。また、詩や短歌を通して、新しい視点で日常を見つめる表現世界を味わう。
2. 古文 用言・助動詞を習得する。和歌の表現方法を学んで古人の思いに触れ、また説話・軍記物・歌物語を通して、古文独特の世界に親しむ。
3. 漢文 使役形・受身形・否定形の句法を習得する。また、漢詩や思想・史話・故事成語の短文を通して、漢文の世界に親しむ。
4. 表現 書く作業を通して、観察力・表現力をつける。また、グループ発表や質疑応答の作業を通して、筋道を立てて話す力・聞く力をつける。
5. 主体的に学ぶ力 他者との対話を通じて自分の考えを深め、言葉を通して積極的に他者や社会と関わろうとする態度を身に付ける。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価 規 準	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

学習方法

授業を大切にすることが基本である。授業前には必要なものを準備し、着席しておく習慣を付ける。授

業中は、教師の説明や指示を注意深く聞き、授業の流れに沿って学習するのは勿論のこと、教材に応じて国語辞典あるいは古語辞典を引き、自ら学ぼうとする姿勢で臨む。ノートは板書や教師の説明を丁寧な字で確実に書くことに加え、自分なりの疑問や気づきをメモする習慣も付ける。

授業時に出された課題は、丁寧に仕上げ、期限を守って提出することを心掛ける。

年間シラバス (1年間の学習予定表)

<週3時間>

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学期	1. 古文入門 2. 古典説話 3. 漢文入門 4. 故事成語 5. 古典随筆 6. 漢文寓話 7. 現代小説	<ul style="list-style-type: none"> 本文の音読・朗読を通して、古文のリズムに慣れる。 歴史的仮名遣い・古語の意味・品詞の種類・係り結びといった基礎知識を系統的に学習する。 短い物語を読み、話の構成や展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わう。 用言と基礎的な助動詞を理解する。 漢文の構造を理解する。 訓読のきまり・書き下し文のきまりを理解する。 短編の故事成語を読んで、まとまった漢文の読みに慣れる。 故事成語の現在使われている意味について理解する。 随筆に表れた作者の考えを、叙述を基に的確に捉える。 話の展開や登場人物の言動を読み取り寓話に込められた意図について考える。 小説の基本的な読解方法を習得する。 近代の代表的な小説を読み、短編小説について理解を深め、面白さを味わう。 	<p>【評価の観点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 知識、技能 思考、判断、表現 主体的に学習に取り組む態度 <p>【評価方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 定期考査の成績 定期考査においては、知識・理解や読む能力に偏ることなく、書く能力をみる出題もある。 平常点 <ol style="list-style-type: none"> 授業時などの学習過程で、評価の観点の3項目について評価する。 課題などの提出状況・復習テスト・小テストの成績などを評価する。
2 学期	1. 古典歌物語 2. 古典日記文学 3. 和歌 4. 古典作り物語 5. 漢詩 6. 散文詩 7. 俳句	<ul style="list-style-type: none"> 歌物語における和歌の役割を理解し、作品全体を深く味わう。 日記文学の表現の特徴を踏まえて、作品に込められた意図を理解する。 表現の特色に注意しながら和歌の内容を読み取る。 作り物語に表れた多様な思いを、叙述を基に的確に捉える。 漢詩に描かれている情景や心情を読み取り、優れた表現に親しむ。 散文詩の特徴を理解し、独特な表現やリズムを味わう。 俳句独自の特徴と表現効果を理解し、想像力を働かせて句の主題を読み取る。 	

3 学 期	1. 古典軍記物語	<ul style="list-style-type: none"> ・軍記物語特有の表現に注目しながら、登場人物の描かれ方を読み取る。 ・散文とは異なる詩ならではのイメージを味わい、感受性を養う。 	
	2. 詩		

第1学年	教科書	東京書籍「精選現代の国語」
現代の国語 (2単位)	副教材	国語便覧、漢字検定対策問題集

学習到達目標

1. 漢字 常用漢字を概ね習得し、日本漢字能力検定2級または準2級の取得を目指す。
2. 説明的文章 さまざまな意見に触れることを通して、自らの考えを形成する。また、すぐれた文章を読み解くことで、言語能力を高める。
3. 表現 書く作業を通して、観察力・表現力をつける。また、発表や質疑応答の作業を通して、筋道立てて話す力や聞く力をつける。
4. 読書 実社会との関わりを考えるための読書の意義と効用について理解を深め、自己を向上させる契機とする。
5. 主体的に学ぶ力 他者の意見を自らの意見の形成に役立て、言葉を通して積極的に他者や社会と関わろうとする態度を養う。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価 規 準	漢字検定2級もしくは準2級を取得し、実社会に必要な国語の知識や技能を十分に身に付けている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を十分に身につけ、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、読書に親しみ自己を向上させ、言葉を通して他者や社会に積極的に関わろうとしている。

学習方法

授業を大切にすることが基本である。授業前には必要なものを準備し、着席しておく習慣を付ける。授業中は、教師の説明や指示を注意深く聞き、授業の流れに沿って学習するだけでなく、教材に応じて国語辞典を引き予習するなど、自ら学ぼうとする姿勢で臨む。ノートは板書や教師の説明を丁寧な字で確実に書くことに加え、疑問や気づきを書き留めるなど、復習時に要点が理解できる工夫を凝らす。授業時に出された課題は、丁寧に仕上げ、期限を守って提出する。また、自分が調べた成果や自分の考えが伝わるような工夫を心掛ける。

年間シラバス (1年間の学習予定表)

<週2時間>

学 期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
--------	---------	--------------	-----------

1 学 期	1. 評論 ◇漢字 ◇読書	<ul style="list-style-type: none"> ・評論の書かれ方を理解し、読み方を知る。 ・日本と西洋の文化の比較を通じて、日本文化の特質について理解を深める。 ・読んだ文章から問いを立て、構成を工夫して意見をまとめる。 ・意見交換を経て形成された自分の考えを整理し、的確に伝える。 ・問題集を用いて、漢字検定2級の合格を目指す。 ・新書などを読み、さまざまな分野における考え方に触れる。 ・読書を通じて、自分の考えを広げたり深めたりする。 	<p>【評価の観点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○知識・技能 ○思考・判断・表現 ○主体的に学習に取り組む態度 <p>【評価方法】</p> <p>1. 定期考査の成績 定期考査においては、知識・理解や読む能力に偏ることなく、書く能力をみる出題もある。</p> <p>2. 平常点</p> <p>(1)授業時などの学習過程で、評価の観点の3項目について評価する。</p> <p>(2)課題などの提出状況・復習テスト・小テストの成績などを評価する。</p>
2 学 期	1. 評論 ◇漢字 ◇読書	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の主張を的確に読み取り、文章の内容を要約する。 ・比喩や具体例に注意して内容を読み取り、文章の主題について考えを深める。 ・文章の読み比べ方を学び、比較する方法を理解する。 ・グラフや写真の読み方を理解し、情報を適切に読み取れるようにする。 ・情報の信頼性を吟味し、伝える相手や目的に応じてまとめる。 ・問題集を用いて、漢字検定2級の合格を目指す。 ・新書などを読み、さまざまな分野における考え方に触れる。 ・読書を通じて、自分の考えを広げたり深めたりする。 	
3 学 期	1. 評論 ◇漢字 ◇読書	<ul style="list-style-type: none"> ・文章中に挙げられた事例に即して内容を的確に読み取る。 ・筆者独自の表現に注意して内容を読み取り、文章の主題について考えを深める。 ・読んだ文章から自らの考えを広げ、構成を工夫して意見をまとめる。 ・意見交換を経て形成された自分の考えを整理し、的確に伝える。 ・問題集を用いて、漢字検定2級の合格を目指す。 ・新書などを読み、さまざまな分野における考え方に触れる。 ・読書を通じて、自分の考えを広げたり深めたりする。 	

第2学年	教科書	指定なし
国語演習 (1単位)	副教材	国語便覧など

学習到達目標

1. 現代文・古典の枠にとらわれず、様々な時代・分野の作品に触れ、語彙力や読解力を高め、社会で役立つ国語の知識・技能を身に付ける。
2. 小論文作成や創作活動、発表等を行うことで、論理的思考力や表現力を養う。
3. 様々な作品を読解し、言語による表現活動を行うことで、生涯にわたって読書に親しむ姿勢や言語を通して他者や社会に関わる態度を養う。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> ・読解や言語表現に必要な語彙を身に付けている。 ・文章の種類や特色、構成について理解している。 ・文章に応じて適切な表現や言葉遣いを使い分けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の構成や展開を捉えながら、的確に内容を読解している。 ・表現や構成に留意しながら、自分の意見を論理的に伝えることができている。 ・他者の意見に触れることで、自らの意見を深めることができている。 	文章読解や表現活動に主体的に取り組み、得られた知識や論理的思考力、表現力を実生活で生かそうとしている。

学習方法

授業を大切にすることが基本である。授業前には必要な物を準備しておくのはもちろんのこと、授業中は教師の説明や指示を注意深く聞き、授業の流れに沿って学習できるようにする。ノートは板書や教師の説明等を丁寧な字で確実に書くだけでなく、復習時に要点が理解できるような工夫を凝らす。授業時に出された課題は、丁寧に仕上げ、期限を守って提出することはもちろんのこと、自分で調べた成果や自分の考えが伝わるような工夫を心がける。

年間シラバス (1年間の学習予定表)

<国語演習 週1時間>

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学 期	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文章読解 2. 言語表現活動(意見文・小論文など) 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な時代・分野の作品を読解し、語彙力と読解力を身に付ける。 ・筆者の生き方や心情・考え方を理解し、ものの考え方、感じ方を豊かにする。 ・文章の種類や特徴、構成について理解する。 ・文章の構成の仕方を学ぶ。 ・文章に応じた文体や言葉遣いを学ぶ。 ・自分の意見を論理的に伝える方法を習得する。 	<p>【評価の観点】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 知識・技能 2. 思考・判断・表現 3. 主体的に学ぶ力・人間性等 <p>【評価方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 定期考査 課題などの提出物 2. 定期考査 課題等の提出物、発表 3. 授業に取り組む姿勢 課題等の提出物、発表
2 学 期	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文章読解 2. 言語表現活動(小論文など) 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な時代・分野の作品を読解し、語彙力と読解力を身に付ける。 ・筆者の生き方や心情・考え方を理解し、ものの考え方、感じ方を豊かにする。 ・文章の種類や特徴、構成について理解する。 ・様々なタイプの小論文作成に取り組み、社会問題への関心や理解を深める。 	

		<ul style="list-style-type: none"> ・本格的な小論文を作成する中で、論理的思考力を養う。 	
3 学 期	1. 文章読解 2. 古典の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な時代・分野の作品を読解し、語彙力と読解力を身に付ける。 ・筆者の生き方や心情・考え方を理解し、ものの考え方、感じ方を豊かにする。 ・文章の種類や特徴、構成について理解する。 ・古文や漢文の文章を取り上げて精読することで、これまで学習してきた文法事項や単語などの知識を定着させる。 ・作品に表れた人間、社会、自然などに対する思想や感情などを読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。 	

第2・3学年	教科書	『古典探究』
古典探究 (4単位)	副教材	国語便覧、古典文法テキスト、古文単語集

学習到達目標

1. 古典に用いられている語句や文法事項、句法等、古典を読解するために必要な知識や技能を身に付け、様々な時代・分野の文章に触れ、伝統的な言語文化に対する理解を深める。
2. 古典を通して古人の生き方やものの考え方を読み取ることで、思考力や想像力を伸ばし、豊かな見識や感性を育む。
3. 様々な作品に触れることで言語文化の担い手としての自覚を深め、生涯にわたり古典に親しむ姿勢を養う。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> ・読解に必要な語句や文法事項、句法などを身に付けている。 ・言葉の響きやリズム、修辞など表現の特色を理解している。 ・現代とのつながりの中で古典の言葉を理解できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の構成や展開、表現の特色を捉えながら、的確に内容を読解している。 ・書き手の意図や心情を読み取り、文章を解釈することができる。 ・書き手の生き方や考え方を踏まえ、自分のものの考え方・感じ方を広げ深めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・古典作品に興味関心を持ちながら主体的に学習に取り組んでいる。 ・作品を多角的な視点から評価し、伝統的な言語文化の価値に対する自らの考えを持つことができている。

学習方法

授業では教員の説明や指示を注意深く聞き、必要に応じて辞書などを用いて調べて積極的に取り組む。ノートは板書や教員の説明等を丁寧に書くだけでなく、復習時に要点が理解できるような工夫を凝らす。授業時に出された課題は、丁寧に仕上げ、期限を守って提出することを心がける。その上、自分で調べた成果や自分の考えが伝わるような工夫を心がける。興味関心を抱いた分野については、自主的に作品を読み進めたり、関連箇所を調べたりすることで理解を深める。

年間シラバス (1年間の学習予定表)

<古典探究 週2時間・第2学年>

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学期	1. 古文「説話」 2. 古文「随筆」 3. 漢文「故事成語」 ◇文法	<ul style="list-style-type: none"> 構成や展開に即して作品の内容を的確に捉える。 説話の面白さを味わい、古人のものの見方、考え方を理解する。 作者や作品に関する知識を身に付けた上で、随筆の表現の特徴を理解する。 文章に表れた人間、社会、自然などに対する思想や感情などを読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。 故事成語の生まれた背景や本来の意味を理解する。 中国古典に由来する語句が現代生活に多く用いられていることを再認識し、日本文化と中国文化の関係を考える。 助動詞や句法を学習する。 	<p>【評価の観点】</p> <ol style="list-style-type: none"> 知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学ぶ力・人間性等 <p>【評価方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 定期考査 小テスト 課題などの提出物 定期考査 課題等の提出物、発表 授業に取り組む姿勢 課題等の提出物、発表
2 学期	1. 古文「物語」 2. 漢文「史話」 ◇文法	<ul style="list-style-type: none"> 作品の内容を的確に捉えるとともに、和歌の修辞などを学んだ上で、豊かな表現を味わう。 作品に表れた人間、社会、自然などに対する思想や感情などを読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。 長文の漢文を読み慣れることで、文章の構成や展開を正しく理解する 作品中の様々な人物の考え方や感情を的確に読み取り、自らのものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。 文章を読む中で、助動詞・助詞・敬語表現・句法についての理解を深める。 	
3 学期	1. 古文「日記」 2. 漢文「思想」 ◇文法	<ul style="list-style-type: none"> 作者や作品に関する知識を身に付けた上で、仮名の日記が生まれた背景を理解する。 文章に表れた人間、社会、自然などに対する思想や感情などを読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。 古代中国の思想家たちの、様々な考え方や感情を的確に読み取り、自らのものの見方、感じ方を豊かにする。 古代中国を代表する思想書を読むことで、日本文化との関係について考える。 文章を読む中で、助動詞・助詞・敬語表現・句法についての理解を一層深める。 	

<古典探究 週2時間・第3学年>

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
----	---------	--------------	-----------

1 学 期	1. 古文「作り物語」など 2. 漢文「史話」など	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な文法事項に加えて発展的な内容についても学習する。 中古や中世に書かれた長編作品の一つを一定期間取り上げ、古人の生き方や心情について深く掘り下げる。 基本的な漢文の句法に加えて発展的な内容についても学習する。 漢文の長編作品の一つを一定期間取り上げ、時代背景や古人の生き方や心情について深く掘り下げる。 	【評価の観点】 1. 知識・技能 2. 思考・判断・表現 3. 主体的に学ぶ力・人間性等 【評価方法】 1. 定期考査 小テスト 課題などの提出物 2. 定期考査 課題等の提出物、発表 3. 授業に取り組む姿勢 課題等の提出物、発表
2 学 期	1. 古文「歴史物語」「軍記物語」など 2. 漢文「小説」など	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な文法事項に加えて発展的な内容についても学習する。 中古や中世に書かれた長編作品の一つを一定期間取り上げ、古人の生き方や心情について深く掘り下げる。 漢文の長編作品の一つを一定期間取り上げ、時代背景や古人の生き方や心情について深く掘り下げる。 	
3 学 期	古文「上代・近世の文学」	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い時代の文学に触れ、古人の生き方や心情・考え方を理解し、自分の意見や主張の形成に役立てる。 	

第2・3学年	教科書	『論理国語』
論理国語 (4単位)	副教材	国語便覧、漢字検定2級対策問題集等

学習到達目標

1. 言葉の働きを理解して、学術的な基礎を学ぶために必要な語句の量を増やし、実践的な使用を通して、語感を磨き語彙を豊かにする。
2. 論理的な文章や実用的な文章、設定された題材に関連する文章や資料の読解を通じて、自分の思いや考えを広げ、深める。また、自分の思いや考えを的確に伝えるように工夫して文章を書く。
3. 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみをもち、読み続けようとする態度を養う。

評価の観点

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
評価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> 学術的な学習に取り組むために必要な語彙を習得している。 効果的な文章の構成や展開への理解を深めている。 情報と情報との関係、情報の階層的な整理方法、推論の仕方について、理解を深めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 目的や意図に応じた題材を決め、適切な根拠に基づき、自分の立場や論点を明確にした文章を書くことができる。 構成や論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしなが、要旨を把握している。 	<ul style="list-style-type: none"> 言語や読書の価値に理解を深め、進んで読書に取り組むことができる。 難易度の高い課題でも、粘り強く取り組みを継続することができる。

学習方法

授業では、教員の説明や指示を注意深く聞き、必要に応じて辞書などを用いて調べ、積極的に取り組む。ノートは板書や教員の説明等を丁寧に書くだけでなく、復習時に要点が理解できるような工夫を凝らす。授業時に出された課題は、丁寧に仕上げ、期限を守って提出する。その上、自分で調べた成果や自分の考えが伝わるような工夫を心がける。興味関心を抱いた分野については、自主的に作品を読み進めたり、関連個所を調べたりすることで理解を深める。

年間シラバス (1年間の学習予定表)

<論理国語 週2時間・第2学年>

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学期	1. 評論 2. 実用的な文章 ◇漢字	<ul style="list-style-type: none"> 文章の展開に注意して内容を捉え、筆者の主張や文章の要旨をまとめる。 文章を読んで感じたことや考えたことをまとめるなどして、内容への理解・関心を深める。 実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄を理解し、目的に応じた適切な文章を書く。 問題集を用いて、漢字検定2級合格を目指す。 	<p>【評価の観点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 知識及び技能 思考力、判断力、表現力等 学びに向かう力、人間性等 <p>【評価方法】</p> <p>1. 定期考査の成績 定期考査では、知識・理解や読む能力に偏ることなく、書く能力などを評価する問題も出題する。</p> <p>2. 学習態度等の平常点 (1) 授業時などの学習過程で、評価の観点の3項目について評価する。 (2) 課題などの提出状況・小テストの成績などを評価する。</p>
2 学期	1. 実用的な文章 2. 評論 ◇漢字	<ul style="list-style-type: none"> 設定された題材について、多角的・多面的な視点から内容を捉え、関連する文章を参考にして、自分の考えを広げたり深めたりする。 文章の展開に注意して内容を捉え、筆者の主張や文章の要旨をまとめる。 新しい視点を獲得し、自分の考えの幅を広げる。 問題集を用いて、漢字検定2級合格を目指す。 	
3 学期	1. 小論文 2. 評論 ◇漢字	<ul style="list-style-type: none"> 文章の内容を捉え、筆者の主張や内容を捉え、要旨をまとめる。 筆者の主張を基に、多様な論点や異なる価値観と結びつけて、新たな観点から自分の考えを深める。 文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、理解を深める。 評論を読むために必要な語彙力を付け、次の進路に向けての土台を構築する。 問題集を用いて、漢字検定2級合格を目指す。 	

<論理国語 週2時間・第3学年>

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
----	---------	--------------	-----------

1 学期	1. 評論 2. 小論文・実用的な文章 ◇語句	<ul style="list-style-type: none"> 構成や論理展開を的確に捉え、論点を明確にしなが、要旨を把握する。 表現方法や段落の展開を意識して、自分の主張が的確に伝わる文章を作成する。 学術的な学習に取り組むために必要な語句の定義を確認しながら、習得する。 	【評価の観点】 1. 知識・技能 2. 思考・判断・表現 3. 主体的に学ぶ力・人間性等
2 学期	1. 評論 2. 志望理由書・実用的な文章 ◇語句	<ul style="list-style-type: none"> 関連の文章や資料に基づいて、筆者の立場や目的を考え、内容の解釈を深める。 情報を収集・整理し、根拠を明示することにより、説得力のある文章を作成する。 学術的な学習に取り組むために必要な語句を習得し、的確に使用する。 	【評価方法】 1. 定期考査 小テスト 課題などの提出物 2. 定期考査 課題等の提出物、発表 3. 授業に取り組む姿勢 課題等の提出物、発表
3 学期	1. 古典における評論 2. 実用的な文章	<ul style="list-style-type: none"> 俳論・歌論などを取り扱い、筆者の視点を整理し、主張を把握する。 文章構成や展開、表現の仕方などについて、自分の主張が的確に伝わるように書かれているかを吟味して、文章を整える。 	

第3学年	教科書	『文学国語』
文学国語 (3単位)	副教材	国語便覧等

学習到達目標

1. 文学的文章を読解するために必要な知識や技能を身に付け、我が国の言語文化に対する理解を深める。
2. 文学的文章の学習を通じて、深い共感力や豊かな想像力を育むとともに、他者との関わりの中で伝えある力を高め、自分の思いや考えを広げ、深める。
3. 言葉の価値に対して認識を深め、読書に親しみ自己を向上させる姿勢や、言葉を通じて他者や社会に関わる態度を養う。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 情景や心情を表す語彙を豊かにするとともに、文体や表現技法への理解を深め、実践的に用いることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章の構成や展開、修辞を踏まえて正確に解釈する力を養っている。また、時代背景や他の作品との関連を踏まえて、解釈を深めている。 題材に応じて情報を整理し、表現したいことを明確に伝えられる。 文章の構成や展開を工夫したり、文体の特徴や修辞を考慮したりして、読み手の関心を得ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 言語や読書の価値に理解を深め、進んで学習や読書に取り組むことができる。 文学的文章を読むことを通じて、人間・社会・自然などに対するものの見方や感じ方、考え方を豊かにすることができる。

学習方法

授業では、教員の説明や指示を注意深く聞き、必要に応じて辞書などを用いて調べ、積極的に取り組む。ノートは板書や教員の説明等を丁寧に書くだけでなく、復習時に要点が理解できるような工夫を凝らす。授業時に出された課題は、丁寧に仕上げ、期限を守って提出する。その上、自分で調べた成果や自分の考えが伝わるような工夫を心がける。興味関心を抱いた分野については、自主的に作品を読み進めたり、関連箇所を調べたりすることで理解を深める。

年間シラバス (1年間の学習予定表)

<文系：文学国語 週3時間>

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学期	1. 散文 (小説・随筆等) 2. 韻文 (詩・俳句) 3. 文学評論 4. 語句・表現 5. 言語表現活動	<ul style="list-style-type: none"> ・文体の特徴や修辞などの表現技法について理解する。 ・構成や展開、描写の仕方などを的確に捉える。語り手の視点や場面設定の仕方などの評価を通して、内容を解釈する。 ・修辞などの表現技法や作者の特色を踏まえて、解釈する。 ・散文または韻文に関する文学評論を取り扱い、内容の解釈への理解を深める。 ・情景の豊かさや心情の機微を表す語句や表現を扱い、語彙を豊かにするとともに、場面に応じて適切な選択ができる。 ・題材に応じて情報収集や整理を行い、表現したいことを明確にするとともに構成や展開、修辞を工夫する。 	<p>【評価の観点】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 知識・技能 2. 思考・判断・表現 3. 主体的に学ぶ力・人間性等 <p>【評価方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 定期考査 小テスト 課題などの提出物 2. 定期考査 課題等の提出物、発表 3. 授業に取り組む姿勢 課題等の提出物、発表
2 学期	1. 散文 (小説・紀行文等) 2. 韻文 (和歌・短歌) 3. 文学評論 4. 語句・表現 5. 言語表現活動	<ul style="list-style-type: none"> ・文体の特徴や修辞などの表現技法について理解し、その効果を評価する。 ・構成や展開、描写の仕方などを的確に踏まえ、解釈の多様性を考察する。 ・修辞などの表現技法や作者の特色を踏まえて、解釈する。 ・散文または韻文に関する文学評論を取り扱い、内容の解釈の多様性を考察する。 ・情景の豊かさや心情の機微を表す語句や表現を扱い、語彙を豊かにするとともに、場面に応じて適切な選択ができる。 ・文体の特徴や修辞の働きなどを考慮し、読み手を引き付ける工夫をする。 	

3 学 期	1. 散文（小説） 2. 韻文（漢詩） 3. 文学評論	<ul style="list-style-type: none"> ・他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果を客観的に考察する。 ・形式の特徴を理解し、展開や描写の仕方に留意して、心情や情景を解釈する。 ・文学の時代による変遷について、理解を深める。 	
-------------	-----------------------------------	--	--